

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2471400131		
法人名	医療法人 ネオポリス診療所		
事業所名	グループホーム 若返り		
所在地	三重県いなべ市大安町大井田2836		
自己評価作成日	平成22年6月1日	評価結果市町村提出日	平成22年8月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2471400131&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 7 月 9 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

各居室及び、リビングの窓から、山や川などの自然が眺められ、四季の移り変わりを五感で感じられる環境があり、テーブルには季節の花が飾ってある。また、敷地内に畑を設け、利用者様と共に作物を栽培し、収穫を楽しみにしている。利用者様の個々の個性を尊重し、それぞれのペースで過ごせるように家族的な支援を心がけている。出来る限り、残存機能を活かし、役割を持って頂き、有意義な生活が送れる様に努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

2階造りの建物で駐車場が広く、そこで散歩したり、畑があって花や野菜づくりを利用者が楽しめる環境である。昨年までは1階でデイサービスが行われていたが、現在は事業は撤退している。2階部分のグループホームが自由に使用している。また、管理者も昨年より異動で変わったが、職員全員が利用者の立場にたつての思いが、会話や行動から伺える。利用者も明るい環境で落ち着いて過ごしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	出勤時に理念を一読し、実践につなげている。職員全員が申し送りや連絡ノートで確認している。	3つの基本理念から、さらに解りやすく地域との交流などを入れた理念が、事業所の目につくところに大きな文字で掲げられている。職員は毎日理念を一読し、サービスにつなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、広報等より情報を得る事が出来る。ゴミ捨てなどにより、地域の一員として交流している。	資源物回収時には利用者と同行し、地域の方と交流している。自治会や老人会からの敬老会のお誘いなどがあり、今後できることから対応していく意向である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	ボランティアや職場体験の受け入れにより理解を深めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の議事として話し合い、意見交換しサービス向上に生かしている。	管理者の異動などで昨年12月から今年の6月まで開催されていなかったが、次回は8月開催予定を委員に通知してあり意気込みがみられる。自治会長や民生委員からの意見もあり協力的である。	管理者の思いである地域交流の場として1階部分を開放していく等の運営に関する話し合い等も盛り込み会議の回数を増やされることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	施設見学を随時受け入れ、積極的に伝えている。管理者が中心となり市町村担当者と相談連絡しながら協力関係を築くように取り組んでいる。	市からは空き情報の問い合わせや視察などがある。管理者を中心に相談や連絡をとり、良い関係を作っている。今後、包括支援センターと協力して認知症サポーター養成講習会を開催予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止についての話し合いをし、玄関は施錠せず、ブザーが鳴るように工夫している。	2階から降りる階段の安全柵には、ブザーを取り付けることで確認をして安全面に配慮している。2階の非常口には、開けようとする利用者用に大きい字で「故障中」と貼り紙をしたりして工夫されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修などに参加し日々のケアに活かし、気づきには申し送りで周知している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今後、研修に積極的に参加し学ぶ機会を持っていきたいと思っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行い、不安や疑問点を尋ね返答し、理解と納得の上、締結している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、体制を整えている。	玄関の意見箱にははまらない。面会の時必ず家族の方と話し、さりげなく要望を言える環境作りに心がけている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を開催したり、連絡ノートを活用し、意見を求め反映させている。	管理者を交えての話し合いはよく開催している。出席できない職員には連絡ノートで意見を反映している。管理者から母体の事務長へそこから理事長へと意見が提案される。最近では休暇について反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善交付金や有給休暇の取得により、少しずつ整備されてきている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修の機会には勤務調整をしながら行っているが、なかなか確保できない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	職員間の交流はあまり無いので、今後、勉強会や相互訪問の機会を作っていきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様が個別で本音を言える場を作り、傾聴し、迅速な対応を心がけ安心して暮らして頂くように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様が意見や要望を言いやすい雰囲気作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様、家族様の要望を聞き、必要な支援が出来るように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族的な関係を築けるように努めている。又、人生の先輩として職員も助けて頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には本人様の様子を報告し、要望を聞いたり、協力を依頼したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	個々の利用者様が手紙や写真を居室に飾ってみえる。又、時々、ドライブに出かけたり、思い出の場所を見て頂いている。。	昔の友人の面会がある。家族や友人に年賀状を出す支援をして関係を継続するようにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションなどで、交流を深め一体感を持って頂いたり、日々の生活においても、支え合って暮らせるような支援を心がけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても利用者様や家族様から継続的な関わりを必要とされた場合、快く受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様本位を原則に、本人の意向を尊重している。	日々のかかわりの中で1対1になれるのは、入浴時や夜勤帯の時利用者が眠れない時など、寄り添って話を聞くようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個別ファイルに保存し、情報を共有し、把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日課表を作成し、変化があれば、その都度検討会議を開催している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しを実施し、変化があればその都度、カンファレンスを実施し介護計画を作成している。	利用者別に担当職員が決めてあり、管理者、計画書作成担当者、家族と話し合い3ヶ月に1回見直しをして作成している。各部屋には計画書がおいてありいつでも家族や職員が見れ、確認ができる。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録になるべく詳しく記録し、情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の生活状況、健康状態は日々、変化があるため、その都度検討し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の消防署と連携したり、図書館やイベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は本人及び家族の希望を重視し、医療法人が母体の為、健康管理には十分配慮し、必要時には迅速に受診の対応をしている。定期的に往診もしている。	事業所母体の医師が月2回往診をしている。また、他科医療機関の受診は家族の同行をお願いしている。緊急時は職員が支援をしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員に相談しながら個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、情報提供をし、入院中にもお見舞いに出かける等し、本人様の状態を把握している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	当事業所で、出来る事と出来ない事を明確に伝え支援している。	契約時に看取りはしない方針を家族へ説明している。利用者が重度化していくことも踏まえ、再度家族と話し合う機会を考えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを各自、確認しているが、人工呼吸や心臓マッサージなどの研修にも参加して実践力を身につけていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携を図り、定期的に避難訓練を実施している。又、より良い避難方法について話し合いを設けている。毎月10日を防災の日として、位置づけ、職員の意識を高めている。	消防署の協力で夜間想定避難訓練を行った。その結果多くの問題点がみつきり継続して検討が必要と感じ、毎月10日を「防災の日」と決め職員全員で取り組んでいる。	「防災の日」を決め1つずつ問題点を解決する姿勢が伺える。今後も継続した取り組みを期待する。また、地域の協力は欠かせないことであり運営推進会議などでの検討も期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	言葉遣いや言い方、口調などを気をつけるようにこころがけている。排泄の失敗時などは他者に気づかれぬように配慮している。	言葉使いの勉強会を行っている。人生経験のある職員が多く、利用者の立場に立ってのケアに、心がけていることが会話の中からもみ取る事が出来る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者様主体の意思決定が出来るように努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースを大切に支援しているが、共同生活のため、必ずしも希望に沿っているかは定かではない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服を選んだり、化粧をしたり、毛染めや移動美容室の手配をしたりして支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食卓を皆で囲み、メニューの話をしたり、準備や盛りつけ、後片付けなどは一緒にしている。	朝、夕食の食材を委託配達してもらい、利用者・職員で調理している。昼食は副食だけ近くの惣菜屋から配達してもらっている。出来る利用者が盛り付けや、片づけを行い、食事前の嚥下体操も利用者が前に出て皆と一緒にしている。職員も一緒に楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取量は個別に記録し、誰が見てもわかるようにしている。特に、水分摂取量は十分摂取して頂くように促している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを促している。入れ歯の洗浄や必要時には舌ブラシも活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、なるべく布パンツで過ごせるように、声掛けトイレ誘導の支援をしている。	昼間は布パンツを使用してもらいトイレ誘導を支援している。夜間はリハビリパンツを使用して安眠できるよう心がけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便状況を把握し、水分補給、適度な運動、乳製品の飲食、薬剤調整により予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	1日おきに順番制(公平)にしている。焦る事なく、利用者様のペースを尊重している。無理強いはいしない。	2日に1回は入浴できるよう公平に順番を聞きながら行っている。以前は洗髪や入浴を拒否する利用者があったが、誘導方法などを色々試みてやっと落ち着いて入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	眠れない時は職員と話しながらゆっくりと過ごし、眠れるような環境を提供するように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	投薬マニュアルを作成し、ホワイトボードの活用と共に個別ファイルに処方箋がいつでもみられる様に工夫している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることの役割分担や、体操やレクリエーション、外出により気分転換を促している。ボランティアを随時受け入れ楽しんで頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個々の希望にそって外出したいが、職員体制や体調によりそえない事が多い。季節の花見やイベントには出かけるように支援している。	利用者が住んでいた近くの梅林公園やアジサイの里に体調の良い利用者皆で出かける。食事の材料などを近くのスーパーへ買いに行く時も交代で職員と行っている。利用者それぞれの希望には添えない場合もあるが出来る限り支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族様、本人様の希望に応じて金銭管理の支援をしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙の投函などの支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花が常時飾っており、季節毎の貼り絵の制作をおこなっている。室温、湿度を毎日確認している。	職員持参の季節の花が利用者と一緒に生けて飾っており明るい雰囲気である。近くの高校の美術部より季節の下絵が書いて届けられ、利用者が貼り絵をした、共同作品が掲げられている。テレビを見たり会話をしたりと居心地よく配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前のソファ、畳の間、所々に椅子が置いてあり、好きなところに自由に座っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各々馴染みの物を利用して頂いている。入所時、自宅より使い慣れた布団、衣類、小物を自由に持ち込みして頂き、配置等も家族様と本人様の自由にさせていただいている。	どの部屋も鈴鹿山系や田畑が見え、明るく落ち着いた部屋である。また、自分の洗濯物は自分で干せるように各部屋にピンチハンガーがあり自由に使用している。出来ないところは職員の支援で行い戸外にも干しに行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手摺りをつけており、トイレの場所などは大きくわかりやすく掲示してある。自分の居室がわかるように、目印をつけてある。		